2026年　第1回　聖隷看護小規模多機能運営推進会議 議事録

日時　：2026年7月9日（木）14：00〜15：00
参加者：髙橋氏（西第一地域包括）・世古氏（西第二地域包括）
　　髙橋氏（横須賀愛光園園長）・久保田氏（聖隷訪問看護ステーション横須賀）
　　聖隷看多機樋口・角井（司会/書記）
欠席者：米山氏（武山社会福祉協議会副会長）

議題

1. 運営状況報告
2. 各サービスの実施状況
3. 取り組み活動報告
4. 事故報告
5. 新規問い合わせ状況
6. 地域行事・活動について
7. 次回開催日程と参加者調整

---

1. 運営状況報告

定員と利用者数

資料は5月時点のものとなっており、6月分の記載が間に合わなかった。定員は25名で、現在の利用者数は20名となっている。

介護度の分布状況

介護度の分布については大きな変化はなく、要介護1の方が最も多い状況である。要介護4と5の方を合わせて8名おり、平均介護度は2.8（正確には2.75を四捨五入）となっている。この介護度は昨年から継続して同様の推移を示しており、申し込みされた方を受け入れ続けた結果として、介護度3前後の数値で推移している。

他事業所との比較

横須賀市葉山三浦の看護小規模多機能連絡会に参加した際、他の事業所も概ね介護度3.1から3.2程度であることが確認され、当施設の介護度が特別低いわけでも高いわけでもないことが分かった。

質疑応答

該当なし

決定事項
該当なし

---

2. 各サービスの実施状況
サービス実施回数
4 月、5 月のサービス実施状況について、大きな変更はなかった。訪問サービスが若干少なかったものの、全体としてサービス実施回数はほぼ変わらない状況である。

土日の宿泊サービス再開
開設からこれまで職員配置が不足していたため、土日の宿泊サービスを停止していた。しかし、職員の復帰を機に、7 月 1 日からフル稼働できる配置の見通しが立ったため、宿泊サービスを再開した。7 月第 1 週は実際の宿泊利用者はいなかったが、受け入れ体制は整っている。

連続宿泊の対応
これまでは宿泊の方が金曜日に帰宅し、土曜日の通所と送迎で帰宅、月曜日の朝に再び来所するという形で、週 1 回は自宅に戻る運用をしていた。この方法では、週末に自宅に戻ることが難しい方は利用できなかったが、7 月からは連続して宿泊できるようになり、そのようなケースにも対応可能となった。

横須賀市への周知
横須賀市の総合病院に対してフル稼働の体制を伝えているが、まだ完全に周知されていないため、今後も情報発信を継続していく予定である。

【質問】看護小規模多機能は何日間連続で宿泊できるのか。
→**【回答】**連続宿泊日数に規則上の制限はない。1 週間や 1 か月の連続宿泊も可能である。ただし、基本的には自宅での生活を継続してもらいたいという方針はある。
決定事項

- 7 月 1 日から土日を含めた宿泊サービスをフル稼働で再開する。

---

3. 取り組み活動報告
看護と介護の連携（看取りケース）
看取り対応の実施
看取りの利用者を受け入れる中で、看護師と介護職員が密に連携を取りながら対応した。看護師の持つ情報と介護職員の持つ情報をつなぎ合わせながら、利用者が最期をどこで迎えるかを模索し決定した。

家族のメンタルケア

夫婦 2 人で生活していた方の看取りにおいて、家族の精神的なケアについても看護師が関わり、密な連携を取りながら対応した。

具体的な看取り事例

利用開始から 3 日程度で亡くなられた方のケースでは、契約時に本人が自宅の簡易ベッド（衣装ケースの上に布団を敷いたもの）で死ぬという強い意思を示していた。送迎の際も絶対に行かないと拒否が強く、30 分ほど息子を交えて交渉し、なんとか来所してもらった。

来所後は、お風呂には長く入っていなかったが、ベッドの快適さや居室環境（エアコン完備、職員の近さ）により、非常に居心地が良いと感じてもらえた。本人は肺気腫で酸素を常時 3 リットル、希望時は 4 リットル流しており、左側を下にして寝ると苦しいため右側でしか寝られない状態だった。認知機能は保たれており、2 週間前までインターネットでおむつを注文していたような方だった。

2 泊 3 日の予定で、3 日目に亡くなられた。奥様も家が近いため、亡くなる前まで一緒に過ごし、疲れたら帰宅するという形で対応した。本人は職員に「ありがとう」と声をかけるなど、最期まで意思疎通ができていた。お風呂にも入ることができ、家族も非常に喜ばれた。

別の看取り関連ケース

夫婦 2 人暮らしで、先日奥様を看取った後、今度はご主人が外で転倒して頭を打ち亡くなられたケースがあった。奥様のケアで訪問看護師が関わっていたため、ご主人についても適切に関係機関につなぐことができた。お子さんも亡くなっており、結婚もしていないため、家族への連絡が難しかったが、看護師と相談しながら対応し、東北からご親戚が来てくださった。

レクリエーション活動

外出レクリエーション

5 月にはしょうぶ園に利用者 3 名を連れて行き、外の空気を吸っていただいた。7 月にはかっぱ寿司に 3 名の利用者を連れて行く予定である。家族とは現地で集合予定。

おやつレクリエーション

どら焼きやフルーチェを作るおやつレクを実施し、利用者に楽しんでいただいた。どら焼き作りでは、焼くところからあんこを出したり挟んだりする作業を一人一人にやっていただき、昔やっていた方もいて上手に作られていた。新たな一面も見られる活動となった。コーヒーも提供し、非常に好評だった。

美容サービスのお試し利用

訪問美容サービスを 4 月から 3 か月間お試しで利用した。5 月 28 日がメイクの日だったた

め、女性の方には洗顔から化粧までを実施した。男性には髭剃りやオイルを塗る、保湿などを行い、計 10 名が利用した。

評価と終了

3 か月間で計 6 回実施し、お試し期間終了後に評価した結果、継続しないことを決定した。期待していた効果に達していなかったことが理由である。メイクが 1 対 1 のサービスに集中してしまい、レクリエーション要素がなく、本人との会話もなくメイクに集中するという状況だった。全体的に雰囲気を楽しくする、利用者がもっと楽しめる雰囲気作りが必要だったと考えられる。

ただし、女性はメイクを非常に喜んでおり、マニキュアや化粧、ヘッドスパなどを実施した。自宅に帰ってからも自分でやったという報告もあった。今後、新しいサービスがあれば、お試し利用を検討していく。

決定事項

- 訪問美容サービスは 3 か月のお試し期間終了後、継続しないことを決定した。

---

4. 事故報告

内容

事故発生状況

期間中、忘れ物の事故が 2 件あった程度で、利用者が直接転倒するなどの事故は発生していない。

髭剃り返却忘れ事故

事故の概要

奥様から連絡帳を見て髭剃りが戻ってきていないという連絡があり、捜索したところ、4 日後に別の利用者のポーチの中に髭剃りが入っているのを発見し、返却した。

原因

入浴時に髭剃りを使用後、すぐに本人のポーチに戻さず、1 人の職員が複数の利用者の髭剃りを 1 か所に置いていた。それを戻す際に、複数のポーチがある中で、間違って別の方のポーチに入れてしまった。

対策

入浴はマンツーマンで対応するため、入浴する人以外のものは浴室に持ち込まないこととした。髭剃りなど実施後はすぐにそのポーチに戻すことで、誰かと混ざることを防ぐ対応を現在継続している。

ご飯の炊き忘れ事故

事故の概要

月曜日の朝、泊り利用者が 0 名で通所利用者分のご飯の炊き忘れが発生した。11 時半になってご飯が炊けていないことに気づき、すぐに対応した。

原因

通常、月曜日から土曜日までは早番の職員がお米を炊くが、月曜日は宿泊者がいないため日勤者が炊くことになっている。日勤者３名の中で誰がやるか特別決まっておらず、みんなが誰かがやってくれるだろうと思っていた。

対策

現在はフル稼働になっているため早番職員が炊くことになっているが、宿泊者がいない日には要注意ということで職員に周知している。

質疑応答

該当なし

決定事項

- 入浴時の個人物品は浴室に持ち込まず、使用後すぐに本人のポーチに戻す運用を徹底する。
- 宿泊者がいない日のご飯炊きについて、担当を明確にし注意喚起を継続する。

---

5. 新規問い合わせ状況

内容

問い合わせ状況

利用者が亡くなられたこともあり、新規の問い合わせは多数あった。説明に行ったり、電話で対応したり、見学に来ていただくなどの対応を行っている。

料金面での課題

当日も１件、看護小規模多機能の説明に行ったが、料金のことが気になるという内容だった。利用者にいくらまでを考えているかを伺い、その内容で利用者が困っていることを解決するべくプランを立てて、再度提案する予定である。

定額とはいえ、部屋代や食事代は別途かかるため、宿泊を多く利用すれば料金は上がってしまう。宿泊を使わなければそれほど変わらないが、介護負担の軽減を考えるとある程度の宿泊利用が必要である。そのため、料金面での調整が課題となっている。

地域包括支援センターからの紹介ケース

高橋氏から相談を受けた荻野の方のケースがあった。ご主人が亡くなられたことをきっかけに、主治医が本人に地域包括支援センターに連絡したほうが良いとアドバイスし、本人が高橋氏に連絡した。高橋氏がサービス内容を聞いて、通常のヘルパーステーションとは違うと判断し、看護小規模多機能に連絡があった。

説明に行った結果、対応可能と判断し、県外に住んでいる息子が来るタイミングで会って契約し、対応することになった。サービス内容は、新聞をまとめてほしい、薬の蓋が開かないので開けてほしいといった内容である。

１人暮らしで精神的に弱い方であり、亡くなった旦那に訪問看護が対応していたこともあって、その方のことをよく知っていた。精神的なケアも含めて対応していくことで、看護

小規模多機能を利用していて良かったと思ってもらえるよう、息子にも説明して対応することにした。

居宅サービスへの移行ケース

看護小規模多機能から居宅サービスに戻したケースもある。総合病院への通院に介護タクシー（寝台車両）を使いたいという希望があったが、看護小規模多機能では寝台車両は使えないため、居宅サービスに戻した。利用者がどうやったら快適に生活できるかを考え、デイサービスでも大丈夫と判断したため、デイサービスに来てもらい、看護小規模多機能はやめていただいた。

質疑応答

【質問】居宅ケアマネをしていて、家族が心折れてしまった場合、看護小規模多機能につないでも良いか。看取りが上手にできない方もいるので。

→**【回答】**そのような場合は声をかけていただければ対応する。先生（医師）も来てくれて、看取りのケアも行っている。最後にどこで亡くなりたいかを家族と本人と相談し、必要があれば亡くなる直前に自宅に戻って、自分のベッドで最期を迎えたという人もいる。

【質問】そのようなニーズがありそうだが、対応可能か。

→**【回答】**お金の問題はあるが、家族やチームで心折れてしまう人もいるので対応可能である。以前、夫婦２人暮らしで奥様の治療がなく、悪くなると救急車を呼んでしまうケースがあった。訪問看護が入り、救急車を呼ぶのを止めて訪問看護を呼ぶようにした。その後、床で寝たまま動けなくなり、訪問看護だけでは無理で、ヘルパーもすぐには対応できないため、看護小規模多機能につなげてその日から利用開始した。

【質問】看護小規模多機能から居宅に戻すケースもあるのか。

→**【回答】**ある。病院のホスピスに入る予定で病院に行ったが、意外と元気だったため病棟に入院し、その後看護小規模多機能が関わったが、みるみる元気になって居宅に移行した。要介護から要支援になったケースもある。

【質問】病院受診の付き添いも可能か。

→**【回答】**総合病院でなければ対応している。石渡医院に２か月に１回行く利用者を、金曜日に宿泊して土曜日のお昼に石渡医院で娘に引き渡すこともしている。歯医者や新村皮膚科への付き添いも行っている。

【質問】送迎は施設と自宅の間だけでなく、他の場所でも可能か。

→**【回答】**可能である。デイサービスよりも柔軟に対応できる。

---

6. 地域行事・活動について

内容

地域活動への参加の必要性

看護小規模多機能として、地域の活動に一緒に参加することが必要だが、現在は実績があまりできていない。今後は地域の行事に利用者と一緒に参加していきたいと考えている。

山科台のお祭り情報

7 月 25 日に山科台のお祭りがあり、興味のある方がいれば連れて行くことが可能である。時間は 15 時半から 20 時頃までで、やや難しい時間帯ではあるが、参加を希望する利用者が 2 名いる。

山科台全体でさまざまな催しがあり、明治安田と一緒に体力測定・健康測定のコーナーを出す予定である。他にも自治会が食べ物を出したりする。盆踊りも盛大に行われる。

毎年、西 1 地区、西 2 地区の地域包括支援センターが参加している。山科台は西 1 地区だが、西 2 地区の住民も来て相談することがあるため、西 2 の包括がいるとつながりやすい。

今後の情報共有

今後は地域の行事情報を早めに共有してもらえれば、できることがあれば参加していきたい。

決定事項

- 西二包括の世古氏より、地域の行事情報を早めに共有してもらい、可能な範囲で利用者と一緒に参加していく。

---

7. 次回開催日程と参加者調整

内容

次回開催日程

次回の運営推進会議は、9 月 10 日（木曜日）に開催予定である。

新規参加者の調整

前々回の会議で話題に上がっていた、武山地区民生委員の会長の小川氏に声をかけて参加していただく予定である。次回の民生委員協議会で声をかける予定だが、9 月の民生委員協議会が 9 月 9 日で、運営推進会議と重なってしまうため、9 月の会議には参加が難しい。そのため、11 月の会議から小川氏に参加していただけるよう調整することとなった。

決定事項

- 次回の運営推進会議は 9 月 10 日（木曜日）に開催する。
- 武山地区民生委員の会長の小川氏には、11 月の会議から参加していただけるよう調整する。

全体のまとめ

- 利用者数は定員 25 名に対して 20 名で、平均介護度は 2.8 と安定している
- 7 月 1 日から土日を含めた宿泊サービスをフル稼働で再開し、連続宿泊も可能になった
- 看取りケースを 2 件対応し、看護と介護の密な連携により、本人・家族の希望に沿

った看取りを実現した
- レクリエーション活動として外出（しょうぶ園、かっぱ寿司予定）やおやつ作り（どら焼き）を実施し、利用者に好評だった
- 訪問美容サービスは 3 か月のお試し期間終了後、期待した効果が得られなかったため継続しないことを決定した
- 事故は髭剃り返却忘れとご飯炊き忘れの 2 件で、それぞれ再発防止策を講じた
- 新規問い合わせは多数あり、地域包括支援センターからの紹介ケースなど積極的に対応している
- 料金面での調整が課題となっているが、利用者の状況に応じた柔軟なプラン提案を行っている
- 看護小規模多機能から居宅サービスへの移行や、逆に元気になって卒業するケースもあり、柔軟な対応を行っている
- 地域行事への参加を今後積極的に進めていくため、早めの情報共有を依頼した
- 次回会議は 9 月 10 日開催予定で、11 月から新たに民生委員の参加を予定している